

神様は約束されたとおり、今も世界福音化を成しておられ、そのために答えておられます。それが私と結びつくのはいつでしょうか。私たちの靈的状態が整えられれば、答えは動きだします。世界福音化を信じて、自分の靈的状態を課題にして祈りましょう。さまざまな問題は、それが問題ではなく、靈的状態が問題です。

1. 精的状態のチェックで答えは始まる。

1) イエス様と私への理解不足(37-43)
イエス様は、変貌山から下りて来られたとき、弟子たちが悪霊につかれた人から靈を追い出そうとしたのに、できなかつたことを知つて「不信仰な曲がった時代だ」と弟子たちに言われます。弟子たちは、イエス様といっしょにいてさまざまのことを見て話しもしてきたのに、イエス様がどういう方なのかを分からずについたのでした。

私たちも自分はイエス様をキリストとして信じているのかをチェックしましょう。そして、イエスをキリストと信じている自分には、イエス様と同じ権威があることを認めているのかをチェックしましょう。

2) 十字架の奥義への無知(44-45)
十字架の奥義を弟子たちは分からませんでした。神の御子であり、神様ご自身であるイエス様の十字架の悲惨な死でなければ、解決できない人間であること自分のこととして認めているのかチェックしましょう。神様の愛と人間の絶望的な状態を分からないようにさせる

のが悪魔のしわざです。

3) 自慢と誇りへの肉の基準(46-48)

弟子たちは、だれが偉いのかとか、自分の肉的な自慢や誇りが幸せの基準でした。私たちは自分の基準が、肉的、人間的なものではないのかをチェックしてみましょう。

4) 本質が欠けた組織こだわり(49-50)

仲間ではないのでやめさせたと弟子たちは言います。組織や団体や形式を大切にしていたのです。本質が欠けた、なにか違うことにこだわっていないのかをチェックしてみましょう。

5) 人間的なプライドの戦い(51-56)

弟子たちは、自分たちを受け入れないなら、火を下して焼き殺そうかと言います。人間的なプライドの戦いです。それは幼稚なのです。

6) 優先順位(57-62)

イエス様について行くことより先にすることを言う人々です。福音、福音宣教、礼拝より優先されることはありません。イエス様について行くのは、条件はありません。

このように神様は私たちに靈的状態をチェックさせることを与えられます。神様の願いは、靈的状態を変えることです。

2. 超越の靈的状態で答えの時刻表は動く。

1) Only 絶対キリストの告白

こだわっていることをすべて、ちりあくたと思えるほど、イエス・キリストが only 絶対であることを心から知って告

白しましょう。問題は神様から離れ、悪魔に支配されていることなので、ほかの何によつても解決しません。答えはキリスト1つです。

2) カルバリ山の契約、オリーブ山のミ

ッショナ、マルコのタラッパンの体験十字架とキリストに最高の価値があり、ほかはすべてちりあくたです。キリストによって、人生のすべての問題が終わつたということを認める靈的状態に改善するように祈りましょう。終わったと見ると、超越の状態になり、オリーブ山のミッショナが見えます。そして、世界の現場のサタンの国が見え、福音を宣べ伝えて、暗闇を追い出すには聖霊の満たし以外ないということが分かります。それゆえ、自分が召されたとミッショナが生まれます。サタンの国、暗闇の世界が見えるので、237-5000も見えて来ます。

そして、祈り礼拝するときに、マルコの

タラッパンの体験ができるようになります。そして、ミッショナが全うできる答えの門が開かれます。それが靈的状態が改善されることです。

3) サタンのやぐらが碎かれ

そうすれば、内にあるサタンのやぐらが碎かれます。超越の状態になって、7つの旅程を歩みます。

神様の答えは注がれていますので、靈的状態が改善されるなら、その答えが自分に結び付くようになります。自分の靈的状態の改善にフォーカスを合わせましょう。

キリストにあって、私は誰なのか？私が進む道はどんな道なのか？私に用意されている答えはなんなのか？を深く黙想し、その答えを持って祈り、靈的状態を変えましょう！

1部-ルカ 9:57-62 答えの鍵-靈的状態

なるほど/信者の靈的状態をチェックすることから答えは始まり、超越の靈的状態に改善されると答えの時刻表は動き出す。

ならば/救いの感謝を忘れずに、キリストにあって自分は誰なのか、自分の進む道はどんな道なのか、自分のために用意されている答えは何なのか黙想して整理し、祈りによつて刻印させよう！

2部-マルコ 12:28-34 葛藤を超えて

なるほど/救い(伝道)中心の世界観に立つ時、福音を知らないが故に生じる社会や知識、宗教の葛藤(限界)を超えて伝道者の勝利の道を歩ける。

ならば/伝道者の自我を形成し(やぐら)、伝道者の超越(旅程)を味わい、伝道者の答え(道しるべ)に向かって進もう！